

平成25年度から

新研究主題 「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く
日本人の育成を目指す小学校教育の推進」

全国連合小学校長会

全国連合小学校長会は、平成20年度第60回香川大会から、「新しい時代を拓き、心豊かにたくましく生きる日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を研究主題として、実践的に研究を続けてきた。その推進に当たっては、あらゆる分野で知識基盤社会化やグローバル化が進み、激しい社会変動が予想される社会において、児童それぞれが将来直面する困難な諸課題に立ち向かい、自ら乗り越えていく力を育成する小学校教育の推進を目指して、鋭意努力を重ねてきた。

しかし、社会はさらに変化し、国内においては人間関係の希薄化による孤立感が漂い、国外においても国際的な緊張が高まるなど、先行きの不透明感や閉塞感は一層強まってきている。また、学校では、いじめや校内暴力などを克服する児童の規範意識の育成はもとより、人間関係を結ぶ基本的な力の育成までもが重要な教育課題として浮上してきている。

この期に当たり、これからの国家・社会の形成を担う人間育成のために、平成25年度からの研究主題を「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」と定めた。

本研究主題は、これまでの研究成果を受け、教育基本法や学校教育法、学習指導要領等に示された教育の役割と、変化する時代の潮流や近未来的な課題を踏まえ、様々な分野で、豊かな創造性やしなやかな知性を発揮し、互いの個性や絆を大切にする社会づくりに貢献できる日本人の育成を目指して設定したものである。

これからの時代は、学校教育法で明確に示された「学力」の三要素、すなわち、「基礎的・基本的な知識や技能」「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」を自らの将来に生かすとともに、それらを社会問題の解決や国家・社会の発展に役立てていく力が求められる。そして、今日の知識基盤社会に必要なとされる知識・技能の不断の更新や、教育立国にふさわしい様々な分野でのイノベーションの創出なども、こうした「新たな知を拓く」教育があつてこそ実現する。

さらに、地球環境、資源、国際紛争などの諸課題を解決し、いわゆる「持続可能な社会」を実現していくためには、これまでとは異なる知性や感性、世界観や生き方が求められる。

すなわち、自制を伴う「開かれた個」の確立と、人間的な絆や支え合う仕組みを重視する「人間性豊かな社会」の実現なしには、人類の将来展望すら困難という時代にさしかかっているのである。

今、こうした自覚に立ち、自己の所属する社会の在り方を考えるとともに、よりよい課題解決のために自律的に行動することができる日本人の育成が切に求められている。

全国連合小学校長会は、本研究主題について日々真摯な研究を重ね、その成果を学校経営に生かすとともに、新しい課題に応える教育の推進に全力を傾注していく。また、研究に当たっては、特に次の事項を重視し、学校経営及び日常の教育活動を通して積極的に研究・実践に努めていくこととする。

1 学校経営

校長のリーダーシップで学校は変わる。教育の本道を極めるとともに、時代の潮流を的確に見取り、校長の明確なビジョンのもと、活気ある組織・運営体制を築くことにより、国民の負託に応える学校経営を推し進めていく必要がある。

2 教育課程

「教育立国」実現の鍵は、教育課程の質にある。「生きる力」を支える知・徳・体の調和のとれた育成とともに、世界をリードする高い知性や国際社会から尊敬される豊かな人間性の育成をも視野に入れた教育課程の編成・実施・評価・改善を推進していく必要がある。

3 指導・育成

教育課程の実効性は、教職員の指導力に依る。その資質向上を担う研修制度の在り方や学校内の指導体制をはじめ、主任・主幹教諭等のミドルリーダーの育成、さらに次代の学校を担う管理職の発掘・育成等の方策を探っていく必要がある。

4 危機管理

校長の危機管理が学校の命運を左右する。今日、学校の危機管理は、児童に関わる事故・事件はもとより、いわゆる「学級崩壊」やいじめ問題への対応等、学校経営全般に及ぶ。校長は、それらの予防策・対応策を、常時明らかにしておく必要がある。

5 教育課題

時代の変化は、新たな教育課題となって現れる。人権教育や環境教育等に加え、近年、健康教育やキャリア教育、特別支援教育などが重要度を増してきた。校長は、これらの課題への問題意識と具体策を保持しながら学校経営を推進していく必要がある。